# 1 災害医療の特徴

森野一真
山形県立救命救急センター 副所長

Point 1　災害医療が展開される状況を説明できる.

Point 2　災害サイクルを説明できる.

Point 3　災害対応の原則を説明できる.

Point 4　災害時要救援者について説明できる.

Point 5　災害医療と日常診療との関係を説明できる.

## はじめに

「行く川の流れは絶えずして，しかももとの水にあらず．淀みに浮ぶうたかたは，かつ消えかつ結びて，久しく止まることなし．世のなかにある人と住家と，またかくの如し」これは平安末期から鎌倉初期にかけての歌人・随筆家，鴨長明の『方丈記』の文頭である．教科書にも出てくるため覚えている方もいるかと思う．『方丈記』には安元の大火，治承の辻風（竜巻），福原遷都，養和の飢饉，元暦の大地震という，いわゆる「五大厄災」が記述されている．その内容は現在の私たちでも十分理解できる．平安の世に災害を詳細かつ簡潔に記述したという点で孤高の存在であろう．天変地異は古くから繰り返し生じ，その都度，医療の必要性はあったであろう．

## 1. 災害医療とは

災害医療という用語は，「医療」という言葉の前に「災害」という形容名詞がついている．「災害」の定義はさまざまあるが，何らかの事象もしくは事象により生じたエネルギーが突然地球に及んだ結果生じる，生態系や環境の急激な変化や破壊と社会の混乱であり，予知は困難である．一言で言えば，災害医療は突然現われる環境の急激な変化や破壊と社会の混乱のなかで行われる医療である，と言える．災害時は需要と供給とのバランスが崩れ，需要が供給を大きく上回る状況が突然目の前に現れ，混乱に拍車をかける．平安時代まで遡るまでもなく，阪神淡路大震災や東日本大震災の惨状を顧みれば，その状況は容易に理解できるであろう．

読者の皆さんの多くは「安全な」病院で勤務や研修を行い，地域住民に日々医療を提供されていると思うが，日常の診療は災害医療と言えるだろうか？ 急激な環境の破壊と社会の混乱は非日常であり，日常の診療をそのまま継続することは難しいのではないだろうか．大陸プレート境界（図1）に位置する日本に住む限り，私たちは地震から逃れることはできないし，アジアに位置する以上，台風は毎年通過する．ところが，大震災や風水害をはじめとする災害の発生頻度は低く，災害医療を実際に経験した人は限られるため，その実際を伝えることは難しい．そして，戦争体験の継承が時代の経過とともに難しくなるのと同様に，災害体験も風化しやすい．

災害に関する記録および経験の共有は重要である．災害の特徴をみれば，私たちは常に災害医療に目を向け，その備えを常にすべきであることはいうまでもない．



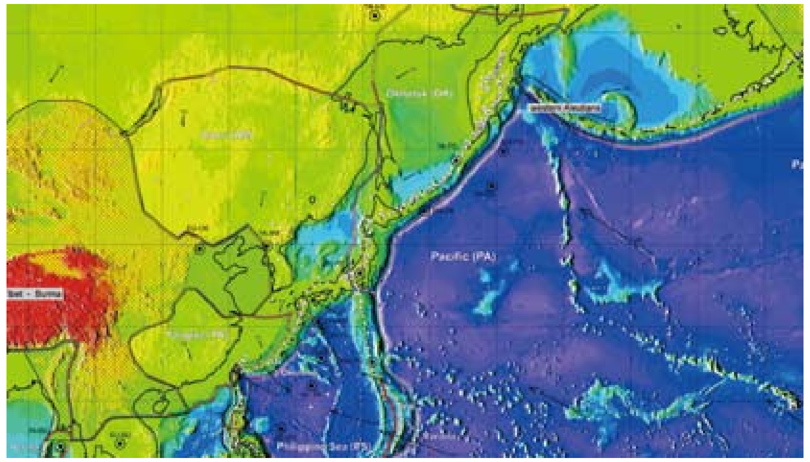

図1 日本周辺の大陸プレート境界（文献[1]より引用改変）

## 戦争からみる災害医療

非日常という言葉から戦争を思い浮かべる人もいるかもしれない．実は，非日常である災害への対応の原型は，多くの場合，過去の戦争での経験がもとになっている．ひとたび戦争が始まれば，多数の負傷者や難民が生じる．時代により医療の質に差はあるものの，何らかの手当や医療がなされたはずである．これも災害医療と言えるだろう．

ナポレオンの侍医は，負傷した兵士に対して前線復帰可能か否かの判別を行い，コーヒー豆の選別の意味で使われていた「トリアージ」という言葉を当てた．これが，現在私たちが治療の緊急度の判定方法として利用するトリアージの原型である．燃料や物資の補給は生命線であり，兵站（ロジスティクス）という概念が生まれ，現在の食料，医薬品，医療材料などの物資の調達という考え方につながった．赤十字社も戦争の負傷者の救援を端に発している．戦争を災害医療という視点から眺めると災害医療の特徴がみえる．

## 医療体制からみる災害医療

日本の災害対応は災害救助法，災害対策基本法に基づいた防災計画による．医療体制においては，「災害拠点病院」を中心に災害対応が行われることになっている．災害拠点病院は都道府県が指定する医療機関で，多くは地域の中核となる，比較的災害に強い病院である．しかしながら，災害医療が行われるのは医療機関だけではない．避難所，救護所，事故現場など，病院前でも行われる．災害医療は被災地で展開され，被災地の医療機関は日常では経験しない多数の患者の受け入れに追われ，支援のために被災地外から多くの救護班が参集する．

一方，「危険で混乱した被災地のなかで医療を行う」という考えを捨て，「安全で日常的な被災のない地域で医療を行う」という発想がある．被災者は住み慣れた地を一時的に離れなければならないが，安全が確保され，被災地の負荷の軽減につながるため，災害の急性期には有用な策である．東日本大震災においても，治療のために医療資源を必要とする重症患者や，ライフラインの影響を受けやすい透析患者などが被災地外へ搬送された．災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team；DMAT）は航空機による被災地外への患者搬送の訓練を行っている．

## 2. 災害サイクル

災害発生を起点とし，その後の時間経過をおよその期間に分類したものを「災害サイクル」と呼んでいる（図2）．従